

6年1組 国語科学習指導案

- 1 単元名 筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう
- 2 教材名 「笑うから楽しい」中村 真 作 「時計の時間と心の時間」一川 誠 作
- 3 指導の立場

(1) 教材について

「時計の時間と心の時間」の学習を通して、付けたい力と指導内容は、以下の通りである。

- ◎筆者の主張や事例などについて、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
 - 事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉えながら、自分の考えを明確にして読むことができる。
 - ・文章には、いろいろな構成があることを理解することができる。
- 読むこと(1)ウ・オ、伝国(1)イ(キ)

本単元は、双括型で書かれた「笑うから楽しい」(中村真 作)と本教材の説明的な文章によって構成されている。この二つの作品は、感じ方などに違いが生じやすい題材を扱っている説明的な文章である。

本単元の目標は、「筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表する」ことである。そのために、まず「笑うから楽しい」では、「筆者の意図のとらえ方」と「自分の考えのもち方」を習得する。さらに本教材では、それらを活用し「自分の考えをもつ」ということを確実に習得していきたい。

本教材は、「二つの時間」についての説明をしており、子どもにとって身近な話題であり、経験したことがある子どもも多いだろうと考える。そのため、自分の経験と照らし合わせながら読むことができ、筆者の考えに対する意見をもちやすいと考える。

また、「初め」(第1段落)と「終わり」(第8段落)で筆者の考え、「中」ではその考えに至った根拠として、「時計の時間」「心の時間」とは何かということについて、事例を挙げながら説明している。第2段落では、「時計の時間」と「心の時間」の特性について書かれており、「心の時間」の特性は2つ挙げられている。第3段落から第5段落には「心の時間」の特性①、第6段落には「心の時間」の特性②についての事例が書かれている。第7段落には「時計の時間」と「心の時間」についてのまとめが書いてある。

第3段落の事例は子どもたちにも経験があり、とても分かりやすいものとなっている。第4、5段落は実験の結果が事例として挙げられているが、子どもの経験と結びつけるのは少し難しいと考えたので、実際に体験して内容の理解を深めていきたい。

本単元における言語活動は「筆者の考えに対する自分の考えを発表する」ということである。そのために、筆者の主張の根拠となる事例に対して自分の考えをもったり、読み手を納得させるための筆者の工夫を考えたりする。その上で筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、仲間に発表する。

(2) 児童の実態

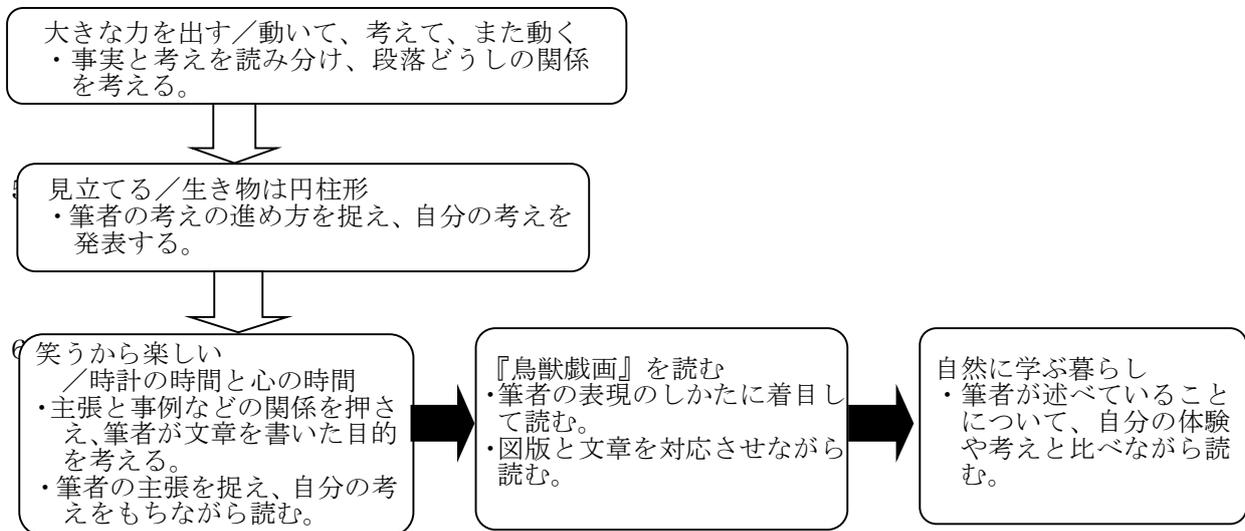
4 研究内容とのかかわり

【研究内容 1 単元指導計画の工夫】

「単元（読むこと領域）における同一指導事項の学年・他学年との関連〈C読むこと オ〉」

（説明文 ◆）

4年	5年	6年
白いぼうし	なまえつけてよ	カレーライス
大きな力を出す／ 動いて、考えて、また動く◆	見立てる／ 生き物は円柱形◆	笑うから楽しい／ 時計の時間と心の時間◆
一つの花	千年の釘にいどむ	森へ
忘れもの／ぼくは川	大造じいさんとガン	やまなし
ごんぎつね	天気を予想する◆	『鳥獣戯画』を読む◆
プラタナスの木	百年後のふるさとを守る	狂言 「柿山伏」について
のはらうた	想像力のスイッチを入れよう◆	自然に学ぶ暮らし
ウナギのなぞを追って◆	わらぐつの中の神様	海の命



児童のつまずきを明確にする

- ・既習学習との比較

第一教材の「笑うから楽しい」で、読み手を納得させるための工夫を挙げておく。本時の課題追究の前に「笑うから楽しい」の工夫を想起させる。「時計の時間と心の時間」と「笑うから楽しい」を比較し、「どういう点が違うのか」「どのような点に自分は納得させられたのか」ということを問いかけることによって、子どものつまずきを解消したいと考える。

【研究内容 2 児童が主体的に学ぶ指導過程の工夫】

ユニバーサルデザインの3つの視点を明確にした指導過程

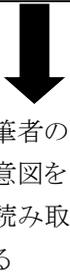
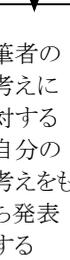
焦点化	視覚化	共有化
○筆者が行っている「工夫」と、その「理由」を追究する。 ○深めの発問では、第7段落に焦点を当て、筆者の主張と第7段落とのかかわりについて考える。	○前時までの学習を、掲示物を使って想起し、本時の学習につなげる。 ○段落の小見出しを使用し、筆者の工夫を板書する。	○第7段落は筆者が読者を納得させるための事例ないが、筆者の主張とどのようなかかわりがあるのかについてグループ交流をする。

5 単元の目標

- ◎筆者の主張や事例などについて、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉えながら、自分の考えを明確にして読むことができる。
- ・文章には、いろいろな構成があることを理解することができる。

6 単元指導計画(全9時間)

〈単元を貫く課題〉 筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう。 〈出口の言語活動〉 筆者の考えに対する自分の考えを、具体例を挙げて発表しよう。				
時数	ねらい	学習活動	評価基準	
一 次	1 学習課題を確かめ、学習の見通しをもち、筆者の考えをとらえることができる。	1 5年生の説明文で学習したことを振り返る。 2 本時の課題をつかむ。 笑うから楽しいを読み、筆者の考えをとらえよう。 3 教科書のリード文を読み、単元のめあてを確認する。 4 「笑うから楽しい」の範読を聞き、筆者の考えをとらえ、発表する。 5 文章の構成を確認する。 6 学習計画を確認し、今後の学習計画の見通しをもつ。	学習の見通しをもち、筆者の考えがどこにあるのかを考えながら、意欲的に文章を読むことができています。 【関・意・態】	↓
	2 筆者の考えと挙げられている事例との関係を考え、筆者の考えに対する自分の考えをもつことができる。	1 前時の学習をふり返り、本時の課題をつかむ。 筆者の考えの書き方の工夫を見つけ、自分の考えをもとう。 2 「笑うから楽しい」を音読する。 3 事例の内容を読み取り、筆者の考えと挙げられている事例との関係を考える。 4 筆者の考えに対する自分の考えをもち、発表する。	「笑うから楽しい」についての構成を捉え、筆者の考えに対する自分の考えをまとめることができます。 【読】(1)ウ	
二 次	3 「時計の時間と心の時間」を読み、感想をもち、筆者の考えをとらえることができる。	1 本時の課題をつかむ。 時計の時間と心の時間を読んだ感想を書き、筆者が読み手に伝えたいことを読み取ろう。 2 教師の範読を聞き、初発の感想を書く。 3 「笑うから楽しい」の学習を想起しながら、第1段落と第8段落に筆者の考えが書いてあることを確認し、筆者の主張を読み取る。 4 学習のまとめを行い、次時への学習の見通しをもつ。	「時計の時間と心の時間」を読んで感想を書き、筆者の考えを捉えることができています。 【関・意・態】【読】(1)ウ	↓

4	第2段落から、「時計の時間」と「心の時間」の違いを読み取り、2つの時間について、まとめることができる。	<p>1 前時の学習をふり返り、本時の課題をつかむ。</p> <p>「時計の時間」と「心の時間」はそれぞれどういうものなのか、読み取ろう。</p> <p>2 第2段落を音読する。</p> <p>3 「時計の時間」と「心の時間」の定義を確かめる。</p> <p>4 全体で確認をする。</p> <p>5 学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>筆者のいう「時計の時間」「心の時間」を、的確に読み取り、まとめることができる。</p> <p>【読】(1)ウ</p>	
5 6	第3段落から第6段落を読み取る活動を通して、筆者が提示した事例を理解し、自分の考えをもつことができる。	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <p>「心の時間」の特性についての事例を読み取り、自分の考えをもとう。</p> <p>2 第3段落から第6段落を音読する。</p> <p>3 第3段落から第6段落の「心の時間」の特性の事例を確かめる。</p> <p>5 4つの事例に対して、自分の考えをもつ。</p> <p>6 第7段落の内容をとらえる。</p> <p>7 学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>第3段落から第6段落における「心の時間」の特性の4つの事例について読み取り、事例に対しての自分の考えをもっている。</p> <p>【読】(1)ウ</p>	
7 本時	「中」の部分に着目し、筆者の主張を読み手に納得させるための工夫を見つける活動を通して、事例を挙げていることや図表で表していること、分かりやすい順番に並べることによって読み手を納得させようとしていること、また事例と最後の主張をつなぐために事例をまとめていることに気づき、段落の役割を考慮することができる。	<p>1 筆者の主張や各段落の内容を確認する。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p>筆者は自分の考えを読み手に納得させるためにどのような工夫をしたのだろうか。</p> <p>3 筆者の工夫と理由を考える。</p> <p>4 学習内容をまとめる。</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>筆者は事例を挙げることや図表で表すこと、分かりやすい順番に並べることで、またそれらをまとめる工夫をして、主張を読み手に納得させようとしたということを見つけ、段落の役割を理解することができる。</p> <p>【読】(1)ウ</p>	 <p>筆者の意図を読み取る</p>
8 三次	筆者の考えや「時間」に対する自分の考えを整理し、自分の意見をまとめることができる。	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>筆者の考えや「時間」についての自分の考えをまとめよう。</p> <p>2 筆者の考えを確認する。</p> <p>3 筆者の考えや「時間」に対する自分の意見をまとめる。</p> <p>4 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>筆者の考えや「時間」に対する自分の考えを、理由とともにまとめることができる。</p> <p>【読】(1)オ</p>	
9	自分の意見を、具体例を挙げて発表したり、仲間の発表を聞いたりして、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>筆者の考えや「時間」についての自分の考えを発表しよう。</p> <p>2 自分の考えを発表し合う。</p> <p>3 発表を聞いた感想を発表する。</p> <p>4 学習したことを振り返る。</p>	<p>「時間」についての考えを、具体例を挙げて発表したり、考えを交流することによって、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【読】(1)オ</p>	 <p>筆者の考えに対する自分の考えをもち発表する</p>

7 本時のねらい

「中」の部分に着目し、筆者の主張を読み手に納得させるための工夫を見つける活動を通して、事例を挙げていることや図表で表していること、分かりやすい順番に並べることによって読み手を納得させようとしていること、また事例と最後の主張をつなぐために事例をまとめていることに気付き、段落の役割を考えることができる。

8 本時の展開(7/9)

	学習活動	○指導・援助(◎重点)◆評価基準
つかむ	<p>1 筆者の主張や各段落の内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1段落の筆者の主張は、『心の時間』に目を向けることが、時間と付き合っていく上で、とても重要なことである」ということです。 第8段落の筆者の主張は、「私たちに必要なのは、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合うちえなのです。」というところから、事例では「心の時間」のことだけについて挙げられているので、第7段落で「時計の時間」について話すことで事例と主張をつなぐ役割がある。 <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p>筆者は自分の考えを読み手に納得させるためにどのような工夫をしたのだろうか。</p>	<p>○前時までの学習を、掲示物を使って想起し、本時の学習につなげる。</p> <p style="text-align: right;">視覚化</p> <p>○筆者が行っている「工夫」と、その「理由」を追究する。</p> <p style="text-align: right;">焦点化</p>
考える	<p>3 筆者の工夫と理由を考える。</p> <p>〈事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な例だったので、自分の経験と同じだと思い、納得できた。 例がたくさんあって、なるほどと思ったから。 実験とか実験結果があると、納得できるから。 <p>〈図表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 文だけよりも、図や表があると分かりやすいから。 グラフを見たら、意味が理解できたから。 <p>〈文章の組み立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例が分かりやすい順になっているから。 事例は、1文目に言いたいことが書いてある。 <p>第7段落にはどのような工夫や役割があるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「笑うから楽しい」の筆者の工夫と比較することによって、「時計の時間と心の時間」の工夫を見つけられるようにする。 「中」の部分に着目するようよびかける。 <p>◎段落の小見出し等を使用し、筆者の工夫を板書する。</p> <p style="text-align: right;">視覚化</p>
深める	<ul style="list-style-type: none"> 第3段落から第6段落のまとめになっている。 第8段落の前に「時計の時間」を出して、「心の時間」だけが必要なのではないということを確認している。 <p>筆者の主張の『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使う。」というところから、事例では「心の時間」のことだけについて挙げられているので、第7段落で「時計の時間」について話すことで事例と主張をつなぐ役割がある。</p>	<p>○事例の段落については工夫としてとらえやすいが、そうではない第7段落に注意を向けるよう、深めの発問では、第7段落に焦点を当て、筆者の主張と第7段落とのかかわりについて考える。</p> <p style="text-align: right;">焦点化</p> <p>◎第7段落は筆者が読者を納得させるための事例はないが、筆者の主張とどのようなかかわりがあるのかについてグループ交流をする。</p> <p style="text-align: right;">共有化</p>
まとめる	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>筆者は、事例をいくつも挙げたり、図や表で示したり、分かりやすい順に並べたり、それらをまとめたりする工夫によって、自分の考えを読み手に納得させようとした。</p>	<p style="text-align: right;">共有化</p>
	<p>5 次時の学習の確認をする。</p>	<p>筆者は事例を挙げることや図表で表すこと、分かりやすい順番に並べること、またそれらをまとめたりする工夫をして、主張を読み手に納得させようとしたということを見つけ、段落の役割を理解することができる。</p> <p style="text-align: right;">【読】(1)ウ</p>